

金澤醫學會雜誌第二卷第十五號

論說 及 實驗

◎金澤病院婦人科患者ノ統計

會員 山 田 謙 治

統計ハ密ニノ誤謬ナキ者ヲ製スルコト頗ル難シ特ニ來診患者ノ統計ニ至テハ至難ニシテ而シテ其經過轉歸等ヲ詳ニスル者少ケレハ興味亦少シ然レモ明治廿年十一月以來患者ノ病類ヲ爲シ之レヲ書籍ニ照シ又他ノ統計表ニ比スルニ大ニ異ナル處アリ依テ其統計ヲ會員諸君ニ頒チ其參考ニ供スルモ亦タ徒勞ニ非ラスト信シ遂ニ之レヲ雜誌ニ登載スルコトセリ此統計ヲ明治廿一年ヨリ起算シタルハ十一月ヨリ病院ノ帳簿ヲ改メタルニ依ルモノニシテ其以前ノ帳簿ニハ投藥シナカラ病名ヲ記セ

カルモノ多ク病歴ノ調査ナク月經初入ノ期、分娩ノ數等毫モ調査ノ材料トナスヘキ者ナケレハ此統計ヲ爲スニ適セサルヲ以テナリ而シテ十一月ヨリ始メ翌年十月迄チ一年トナシタルハ十二月ヲ以テ一年度トスルノ便ナルニ依ルモノニ外ニ理由アルニ非ラス一年度難患者ノ數ハ四百七十人ニシテ患者ノ延員數ハ三千九百七十一人ニ年度ノ新患者數ハ三百六十三人ニシテ延員數ハ二千三百九十二人ニ於テハ患者數ノ減シタル理由ハ金澤病院ニ於テ婦人科ヲ專門科トシテ獨立セシメシ以來四年間ノ慣習ヲ破リ第四高等中學校ノ實習ヲ始メ毎日一人宛助手トシテ治療ヲ補助セシメタルニ依ルモノニシテ明治十一二年來市内娼妓ノ梅毒檢査ヲ病院內醫員ニテ行ヒ十八年ニ驅黴院ヲ設置スル迄ハ娼妓ノ有毒

者ヲ通院セシメ治療シタル慣習アリ廿一年ニ檢毒検査員ヲ置キ金澤病院ノ關係ヲ絶チタレモ學生ノ實習ヲ始ル迄ハ下検査ト稱シ毒ノ有無鑑定ヲ請ヒ來院スルモノ多ク時ニ或ハ一日三十餘人モ來院シタルコアリシカスノ如キモノ頓ニ來院ヲ止メタルモノ患者減少ノ主因ナリ然レモ此減少ハ表面上ノ減少ニシテ其裏面ヲ伺ヘハ眞ノ患者ハ之レヲ減セシ者甚タ少ナク只疾病ノ疑ヒニテ來院スル娼妓ノ數減セシノミ三年ニ至テハ無病ナル娼妓ノ來院ハ殆ント跡ヲ斷チタレハ三年度ニ於テ患者數ノ増加セシ者ハ増加ニシテ患者ハ年ヲ退ヒ増加スルノ傾アリ是レ蓋シ婦人科ノミアラス本年ノ如キハ金澤病院全体ノ患者ヲ増加セシモノニシテ人民身體ノ貴重ナルヲ悟リ緩慢ニシテ治癒シ難キモノ或ハ急性大患特ニ婦人科ノ如キ治療臺、手術器械ヲ要スルモノハ病院ニ依頼スルノ勝レルコトヲ悟リシニ依ルモノナランカ

患者一人ニテ幾日間通院セシカナ算スレハ一年度ニテハ八、四、五、日二年度ニテハ六、五、六、日三年度ニテハ六、一、五、日ナリ斯ノ如ク平均通院日數ノ減少セシハ其實減少セシニアラス郡村等ノ者多クハ只診斷ノミヲ請ヒ病名預后等ヲ聞キ之レヲ以テ其近方醫師ノ治方ヲ受ケントスルモノ増加セシニ依ルモノニシテ此レハ病院ト地方醫トノ關係密ニナリ醫師患者ニ進メテ診斷ヲ病院ニ請ハシムルノ増加シタルニ依ルモノナランカ蓋シ郡村ヨリ來診スルモノ増加セシ一証ハ入院患者ノ増加ニシテ近日婦人科醫員岡田剛吉氏カ報告スル統計表ニテ明ナル事實ニシテ診斷ヲ受ケ直チニ歸郷シ難キモノハ入院シ歸郷シ得ルモノハ前述ノ法ヲ取テ歸宅スルモノナランカ

今予ハ三年間ノ各年統計ヲ擧ケ又其合計ヲ掲ケ其百分數ヲ醫科大學ニテ榑氏カ調査セシ百分數ト對比セリ

該表ヲ案スルニ一年度ニテハ患者ノ數四百七十八ニシテ疾病ノ數ハ四百八十人、二年度ニテハ患者數三百六十三人ニシテ疾病數四百〇三、三年度ニテハ患者數四百九十九人ニシテ疾病數ハ五百五十五、三年ヲ合計スレハ患者千三百三十二人ニシテ疾病數ハ千四百四十六トナル斯ノ如ク疾病數ノ患者數ニ超越スルハ一人ノ患者ニテ二病以上ヲ兼ヌル者アルト一病快癒後或ハ其經過中他病ヲ發シタルニ因ルモノニ婦人科患者ハ一人ニテ平均一、〇八五ノ疾病ヲ有シタル者ナリ

今我金澤病院患者ノ病類ヲ大學病院ノ患者病類ニ比シ第一目ニ注ク者ハ外陰部疾病ノ數多ナル事ニシテ大學ニアリテハ、十七年ヨリ廿年迄四年間ノ患者二千八十九年ノ中五十人ニテ〇、〇二四%ナルニ金澤病院ニテハ千四百四十六人ノ中百四十七ニテ〇、一〇一強トナル特ニ驚ヘキ大差アルモノハ下疳其他觸接性傳染病ニ

シテ大學ニハ二千八十九人中僅十八人ニテ〇、〇〇八%ナルニ金澤ニテハ千四百四十六人中百五十九人ニテ〇、一〇九%トナル之レ子宮卵巢等内部ノ疾病ハ推シテ之レヲ醫師ニ托セサルモ外部ニ現ハレタル疾病ハ治療ノ必用ヲ會得シタルニ依ルモノカ將タ金澤地方ニ此ノ如キ疾患多キ原因カハ予未ダ之レカ判斷ヲ成サ

ス、ヒステリー、内膜炎、嬰兒子宮、月經異常、子宮屈曲症ノ數大學病院ニ比シテ少キカ如キハ強テ其數ノ少キニモアラサルヘク蓋シ輕度ノモノニ其病名ヲ附スルト否トニ由テ大差ヲ生スヘケレハナリ此外肛門ノ疾病ノ如キハ大學ニテハ婦人科ニテ治療セサレモ金澤病院ニテハ其陰門ト接近スルノ故ヲ以テ同科ニテ治療シ來リタルニ由テ彼ニナシテ予ニアルヘク雜種病ニテ婦人科ニ關係ナキ疾病アルモノハ婦人科的疾病ト合併シタルモノニシテ乳房ノ疾患ナキ者ハ乳房ノ病ハ悉ク外科ニ

テ治療スルノ慣習アリテ婦人科ニテ治療セサルニ依ル
ヘシ又卵巢腫物頸管狹窄等大學ニ在テ金澤病院ニナキ
者ハ別ニ表ニ掲ケス此外尙ホ論スヘキコ多ケレト讀者
統計表ニ由テ見レハ自ラ明カナルヘケレハ略シテ述ヘ
ス

終リニ臨ミ一言スヘキハ此統計表ハ金澤病院婦人科員
ノ盡力ニテナレル者ニシテ特ニ其調査計算ノ勞ヲ取ラレ
シ者ハ笹川宗治、岡田剛吉ノ二君ナリ予ハ同科員ニ代
リテ之レヲ報告スルニ當リ特ニ其始末ヲ記シテ會員ニ
報スルモノナリ

◎月經ト月ノ關係

會員 上 杉 寛 二

抑々月經ハ人身ノ生理作用ニシテ決シテ怪ムヘキコニ
アラスト雖モ古來之ヲ一種ノ不潔物トス即チ不淨ノ名
アルヲ以テ知ルヘシ又タ其名稱ニ至テハ各國千差萬別

アリ然レモ月ノ意ヲ含ムモノ多シ之レ只月毎ニ陰門ヨ
リ血液ノ流出スル故ノミニアラス月經ハ密ニ大陰ニ關
係スルモノトセリ假令ハテスタ氏ハ滿月ニ月經多ク來
リオシアンデル氏ハ新月時ニハ若キ婦人ニ月經多ク老
婦人ニ於テハ滿月時ニ多シト云ヘルカ如シトハ昨年本
會ニ於テ山田副會頭ノ演説セラレシ所ノ概畧ナリ此ノ
事タルヤ往古ノ説ニシテ現今之ヲ信スルノ人ナカルヘ
シ然レモテスタ氏オシアンデル氏ノ説ノ如キハ之ヲ實
際ニ試ムルモ亦タ一快事ナラスヤ依テ予ハ今春來六百
人ノ婦女ニ就テ試験セシニ左ノ表ヲ得タリ而シテ婦人
ノ年齡ハ十五年已上三十年以下ナリ

新月時ニ月經ヲ來シタル者 二百廿七人

滿月時ニ月經ヲ來シタル者 二百人

新月滿月ノ中間ニ月經ヲ來シタル者 百七十三人

此ノ表ニ就テ見ル時ハ新月時ニ月經ヲ來シタル者多ク